

# 教頭会報

栃木県公立小中学校教頭会

発行者 平 本 宰 己

編集 広 報 部

## — も く じ —

◎会長あいさつ	1	◎令和4年度役員紹介	6
◎県教頭会の動き		◎特色ある学校	10
定期総会・講演会	2	◎地区だより	11
◎岩手大会全体会報告	4	◎ひろば・編集後記	12
◎岩手大会分科会報告	5		

## 会長あいさつ

## 父の言葉を胸に

宇都宮市立姿川第二小学校 平 本 宰 己



私の勤務校でのことですが、毎日校門前の横断歩道に立って、子供たちの下校を見守ってくださるボランティアの方がいます。12年前に他界した私の父と同学年で、今でもゴルフを楽しみ、健康に気を付けながら生活していらっしゃる元気な方です。ゴルフ好きだった父も、生きていればこんな様子だったのかなあと、その方とお会いし話をするたびに父のことを思い出します。

私の父は、今も走る真岡鉄道SLの初代機関士でした。旧国鉄時代にはD51をはじめとするSLを運転し、JRに民营化される際に引退後、経験を買われたのでしょうか、第3セクターの真岡鉄道に入社し、福島県川俣町から譲渡されたC12型蒸気機関車を運転することになりました。父は約7年間勤務し、SLを運転しながら機関士の後継者指導にあたりました。私が父と交わしたSLに関する会話の中で、印象的だった言葉があります。「機関車は坂道を登る時に、悲鳴を上げる。その時、慎重にさじ加減しながらレールに砂を流し、摩擦を与え登らせる。まるで生きている人間のような所が電車と違い、SLのおもしろいところだ。その技を後輩たちに伝えていくのが自分の使命」— 晩年の父のプロフェッショナルな一面を感じた言葉で、今でも脳裏を離れません。私は父と違って、子供たちや地域の方々と直接対話できる職場環境で仕事をし、今は若手教員を支援し育てていく立場でもあります。父の言葉を胸に、この職に誇りをもって取り組んでいこうと肝に銘じ、日々仕事をしていますが、忙しさのあまり思うようにならないのが現状で、反省する毎日です。

新型コロナウイルス感染症が発生・拡大したり、戦争が始まったり、痛ましい事件があったりと、想定しないことが次々に起こる現代です。安全神話が崩れかけている今、子供たちが、安心して学べる学校を築き、最先端の教育技術を取り入れ、創造力を生かした効果的な授業や教育活動を展開すること、また、保護者や地域の方々と一緒に、心身ともに健やかで未来を切り拓いて生きていける子供たちを育成することが、私たち教頭・副校長の使命でもあり、願いでもあります。

これからも私は父の言葉を胸に、教頭・副校長職の皆様がやりがいを持ち、使命感をもって職員の指導や児童生徒指導に専念できる環境作りに努めたいと思います。そのためには県内514名の会員の皆様の総力が必要です。コロナ禍の新しい生活様式の中でも、可能な限り会員同士がネットワークを構築し、親睦を深め合いながら研修し、教頭会がさらに発展するよう、皆様の御支援と御協力をよろしくお願いいたします。

## 定期総会

### 県教頭会定期総会に初めて参加して

宇都宮市立明保小学校 上岡 真澄

「栃木県公立小中学校教頭会第60回定期総会並びに研修会」に参加しました。過去2年間、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参集型の開催は行われませんでした。今回は、参集型の開催となりました。冒頭の会長挨拶では本会の目的が掲げられ、今年度も、会員同士が互いに連携・協働し、多様化・複雑化した教育課題の解決を目指し、様々な研修や要望活動に取り組んでいきたいという強い決意が述べられました。令和3年度の事業報告からは、各種総会・研修会が中止やオンライン開催となり、改めて活動の縮小・自粛が余儀なくされたことを感じました。新型コロナウイルス感染症が未だ収束せず、先行き不透明ではありますが、令和4年度の事業計画案や各部の事業計画、予算案からは、本会の活動が教育の発展に寄与し、いかに充実したものであるかを再認識しました。本会は、これまでに「教育理念に基づく学校教育の実現」「教頭としての力量の向上」「学校の社会的役割の推進」を目指す活動を展開し、大きな成果を上げてきました。これまでの数々の実績を基盤とし、令和4年度も、事業計画のもと会員の皆様が協働しながらより一層研究の充実・発展に努めていくことが、子供たちのより良い成長と学校経営の充実につながると感じました。本会は、今年で結成60年という大きな節目を迎えます。60年もの長きにわたり活動を継続できたことは、諸先輩方をはじめ会員の皆様、関係各位のご理解とご支援の賜物であると感じております。今後も会員の皆様と協力しながら、微力ではございますがより一層の発展に努めてまいりたいと思います。



### 県教頭会定期総会並びに研修会に参加して

宇都宮市立国本中学校 瓦井 康司



5月31日(火)に、記念すべき第60回の定期総会並びに研修会が開催されました。会長あいさつでは、その最後に、研究方針の「継続性」「協働性」「関与性」の3つの柱を踏まえ、更に研究を深めていく意向が語られました。また、その研究は、「栃木県教育振興基本計画2025」にある基本理念・基本目標の実現に向けての取組であることも熱く語られました。これらの会長の言葉を拝聴しながら、現状の自分自身に具体的にできることは何であろうかという切実かつ真摯な問いかけにもなった次第です。

さて、記念講演は、明治大学文学部教授「諸富祥彦」先生から「メンタルヘルスをよくする関係づくり」と題したご講演でした。主に体験的なワークショップで、教頭同士という同僚・仲間とのふれあう時間となり、あっという間に時間が経ってしまいました。その中でも私の中に留まったことを2つだけ紹介します。第1に、「アロマの効用」です。教員のストレスや心労が多いことは誰もが認めることだと思いますが、例えば、感情が高ぶった時は、アロマの香りで心を落ち着かせるのだそうです。脳に効くのでしょうか。とにかくその場所から遠く離れ、クールダウンするために、アロマを嗅ぎながら、3回、深呼吸をする。やり方は、鼻から息を吸って、口をつぼめて口から徐々にゆっくりはき出すのだそうです。なんとなく分かっていた情報ですが、そのとき確信しました。第2に、教員が苦境を乗り越えられる条件は、個人的な能力というよりも自分を支えてくれる人的環境であり「チーム力」同僚性が唯一だということです。納得でした。

# 講演会

## 講演会を聴いて

宇都宮市立岡本西小学校 吉田 晋

今まで聞いたことがある講演会は、座って話を聞くことがほとんどでしたが、諸富先生の講演会は、先生の楽しいお話で笑う場面が多く、大事な気付きを得ることができる内容でした。また、今回の講演会のテーマは「メンタルヘルスをよくする関係づくり」という、教頭の職員室における先生方への接し方や心の健康において、自分のことを改めて振り返ることができる大変勉強になる内容でした。

講演会の始めは、まず立ち上がり、近くに座っている先生方4人組で自己紹介や質問をする内容で



した。「自分が今はまっているもの」について紹介し質問をし合う場面で、自分のグループから、「休日にそばを食べに行くこと」「ニンニクの入ったラーメンを食べること」「手作りの足踏み式消毒スタンドを作ること」「時間がある時にお風呂で読書をしてビールを飲むこと」などの話が出てきました。諸富先生から「より深い質問をしてください」と指示があったからは、お互いに打ち解けてきて、初めて話をする先生方との話も盛り上がってきました。座ったままで講演会を聞くだけでは、まわりに座っている先生方のことを知らずにいたところですが、今回の講演会で、近くに座っている先生方とお互いのことを知ることができ楽しい時間を過ごすことができました。



先生のお話で特に印象に残っている内容の1つ目は、「フットワークが軽い」「スマイル」「声かけ」です。「フットワークが軽い」「声かけ」については、普段から先生方に声をかけるように心掛けようと考えているものの、コロナ対応や児童指導などの様々な対応がある毎日を過ごしているうちに、いつの間にか忘れていたことに気がきました。また、「スマイル」についても、何かと忙しい4、5月を振り返ってみると、「スマイル」にはほど遠い硬い表情で仕事をしていた自分に気がきました。

今回の講演会では、管理職目線で話しやすい職員室をつくること、困っている同僚が話しやすい空気をつくること、助けられ上手になることなど、多くのことを学ぶことができました。また、先生方と相談する際には、おだやかさをキープすることが大切であることを聞き、改めて気をつけなければならないと感じました。諸富先生は、日本最大級と言われている総合ディスカウントストアでアロマのボトルを買い占めたとのこと。先生のお話を聞き、私も早速、アロマのボトルを購入し、「いらっと」したらトイレに駆け込み、「鼻からすって、すぼめた口から長く出す。」を実践してみようと思いました。

# 岩手大会全体会報告

## 第64回全国公立学校教頭会研究大会岩手大会 記念講演

小山市立間々田小学校 稲葉 聖

1日目の記念講演では、岩手県盛岡市出身で、映画「るろうに剣心」や大河ドラマ「龍馬伝」などの演出を手がけた映画監督・大友啓史氏から、「アドリブ力を育てる」と題して、ご講演をいただきました。

映画は感情を描くものであり、作品は楽しませるだけでなく人の人生や考え方を伝えたいという考えのもとに、こだわりをもって作っているという話がありました。また、今の時代に合っているか、歴史上の事実に基づいてどのようにしてオリジナリティを出すか、というところに力を注いでいるという話を紹介してくださいました。

1本の映画の製作に携わるスタッフは500~600人であり、構成もベテランから若手まで様々とのことでした。そのため、監督として、スタッフ一人一人の個性と主体性を伸ばすために、「信じて任せて見守る(時に過大評価や無茶振りが、意外と成長させることもある)」ことや「タイミングよく声を掛ける」こと、より良い作品づくりに向けた監督としてのビジョンを明確に示して、その実現のために最低限のルールを伝え、あとはあらゆるスタッフの能力を生かしてチーム力で作品を仕上げることなど、学校における「人材育成」や「組織マネジメント」、「チーム力の強化」などの視点で多くのヒントをいただきました。

また、映画の製作過程では、常に思いがけないことが起こることから、そのときの対応力を身に付けることで、自分で判断できる能力を育てたいという話もありました。さらには、「仕事はこうあるべきだ」という概念を押しつけない、結果よりもプロセスを褒めるなど、職種は異なるものの、同じ管理職として学校現場にも通じる話が多く、大変興味深い話を聞くことができました。

最後に、大友監督から、「教育は、最もクリエイティブな仕事」「愛情があれば間違わない」など、教職員としてのあるべき姿や学校の存在意義、励ましの言葉をいただきました。

## 岩手大会に参加して

那須塩原市立西那須野中学校 江連 英治

7月28日から29日にかけて、岩手大会に参加させていただきました。今大会の研究主題『未来を生きる力を育む魅力ある学校づくり』、サブテーマは「郷土に愛情と誇りをもち未来を生きる力を身に付けた子供の育成を実現する学校づくりの推進」のもと、オンライン形式での研修でした。

初日は、記念講演とシンポジウムが行われました。

記念講演は、映画監督の大友啓史氏のお話を聞くことができました。「るろうに剣心」などを手がけた監督で、映画制作における素晴らしさを様々なエピソードを交えて聞くことができました。その中で、「人材育成」「組織マネジメント」「魅力ある学校づくり」に大切なヒントをいただきました。

シンポジウムは、国立教育政策研究所総括研究官山森光陽氏をコーディネーターとし、文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課安全教育推進室安全教育調査官森本晋也氏、宮古市教育委員会教育長伊藤晃二氏、岩手県中学校長会会長松葉覚氏の3名のシンポジストで「『いわての復興教育』が目指す、郷土を愛し、未来を切り拓く人材の育成」のテーマで行われました。「いきる」「かかわる」「そなえる」をキーワードとし未来志向型の岩手復興教育の取組から、児童生徒たちに未来を切り開く「生きる力」を高め、豊かな人間性や創造性、国際社会の一員として自覚を持たせ、持続可能な社会の担い手となる人材を育成するために、「社会に開かれた学校づくり」を展開する、国民の期待に応える魅力ある学校づくりのために、我々、副校長・教頭がどう関わっていくことができるかを熱く議論が交わされていました。

今回は、オンライン形式で生での体験はできませんでしたが、リアルタイムで、講師の先生方が熱く語り合う姿を拝見することができました。また、2日目に分科会においては、全国の先生方との交流を図ることができ、視野を広げることができました。貴重な体験をありがとうございました。

## 岩手大会分科会報告

### 全国公立学校教頭会研究大会岩手大会 特別分科会 I に参加して

県立宇都宮東高等学校附属中学校 北 條 諭

一人一台情報端末時代に求められる情報モラルとメディア・リテラシーというテーマで日本大学教授の中橋雄先生よりお話をいただきました。本分科会にはオンラインでの参加となりましたが、午前中は中橋先生の講話を聞き、午後は午前中の講話を基に、他県の教頭先生との意見交換を行いました。

GIGA スクール構想については、新型コロナウイルス感染症の蔓延や令和の日本型学校教育におけるICTの活用が推進されたことを受け、急速に一人一台端末の活用が推進されていますが、安心・安全な環境の中で児童生徒が利用できているのかということについては、試行錯誤しながら取り組んでいる印象があります。

今回、情報モラルの観点からは、情報活用の光と陰の部分に着目して、一人一台端末の使用のルールを決めるのか、マナーとして使用の仕方を考えさせるのかなど、場面に応じて答えを出していくことが大切であることを教えていただきました。また、メディア・リテラシーの観点からは、今の時代は「情報とは一人歩きしてしまうもの」という認識の中で情報を発信していかねばならないことを教えていただきました。今後とも、学校と保護者と児童生徒でルールを作りながら、環境を整えていくことが大切であると考えました。

午後は北海道、山梨県、山口県の先生方とグループになり協議をしました。情報モラルを指導する時間の取り方や指導する内容について、また、保護者との連携の仕方についてなど、学校種や地域によって様々な取組があることを知ることができました。各道県の先生方と話し合う中で、一人職であることが多い教頭・副校長の悩みを共有し、新たな発見を見いだすことができました。

最後になりますが、本分科会に参加させていただき、改めて情報モラルとメディア・リテラシーについて深く考えることや、全国の教頭先生とも情報交換をすることができました。貴重な機会をいただきありがとうございました。

### 「第64回全国公立学校教頭会研究大会岩手大会 分科会」に参加して

鹿沼市立南押原中学校 中 村 龍 一

私は、「副校長・教頭の職務内容や職務機能に迫る課題」をテーマにした、第6分科会にオンライン参加した。冒頭、全公教総務・調査部から「全国公立学校教頭会の調査」について結果報告及び考察が発表された。そこでは、副校長・教頭職の勤務実態が明らかにされたが、同職が学校内外の連携の要となる働きをしていることに加え、新学習指導要領全面実施に伴う評価の見直しや一人一端末の導入、感染症対策等により、負担と勤務時間が増していることが課題として指摘された。そして、個人の努力ではいかんともしがたい教員定数の拡充や専門スタッフの配置といった人的支援、GIGA スクール構想に係るICT環境の整備改善等、行政への積極的な働きかけが必要であることが提言された。現在、主幹教諭や校務支援スタッフの配置、校務支援システムの導入などが継続的に進められ、負担軽減に寄与しているところだが、副校長・教頭がやるべきこと、やりたいことを自ら考え、実践していくには、さらなる推進が必要かと思えた。また、全国規模で見たとき、場所によっては、いまだに副校長・教頭が未配置であったり、他の職務を兼務していたりと、これまであまり関心を寄せていなかったのが、改めて驚かされた。

発表に続いて、東京大学大学院教育学研究科教授 勝野正章先生による、「魅力ある副校長・教頭の在り方ー全公教調査から見えてくる現状と今後の課題ー」なる演題の講話を拝聴した。教職員の命と健康を守り、子供と向き合う、あるいは求められる学びへの対応を検討吟味するといった、本来の業務に向き合う時間を確保するため、働き方改革は喫緊の課題であることを再確認した。その上で、所属職員の意見をとりまとめ、実行に移していくリーダーとなるのが、まさしく我々であることを再認識する機会となった。

一日を通して印象に残ったのは、絶対的な仕事量を減らし、勤務時間を短縮することはもちろんであるが、それと同時に教育の質を高めていかなければならないということ。また、職員を孤立させないために、つなぎ束ねるのが教頭の大きな役目だということである。

# 役 員 紹 介



会長  
**平本 幸己**  
(宇都宮市立矧川第二小)

再び会長に選任されましたが、役員と力を合わせて今年60周年記念研究大会という大きな事業の成功に向けて、微力ではありますが力を尽くす所存です。私の趣味は某アーティストF. Mのコンサートに参戦することです。コロナが落ち着き、年末のコンサートにも行くことを楽しみにしています。



副会長  
**五月女康弘**  
(さくら市立氏家中)

今年度、副会長を務めます、さくら市立氏家中学校の五月女康弘と申します。コロナ禍の中で活動が制限されることと思いますが、平本会長を補佐し、有意義な教頭会になるように尽力したいと思います。1年間、御協力をよろしくお願いいたします。



副会長  
**吉田 晋**  
(宇都宮市立岡本西小)

今年度、副会長を務めさせていただくことになりました。平本会長、役員の方々と連携しながら取り組んでいきたいと思っています。趣味という程ではありませんが、休日に県内各地にドライブに行き、おいしい店で食事をしたり、城跡などを見たりして、栃木県のよい所を探ることが最近の楽しみです。



副会長  
**瓦井 康司**  
(宇都宮市立国本中)

私は、国語の教員であり、中学校勤務のため部活動は、サッカー部を担当しております。ということもあり、座右の銘は、サッカー界の元フランス代表監督ロジェ・ルメール氏の言葉で【学ぶことをやめたら教えることをやめなければならない】というものです。何事に対しても学び続ける教員を常に理想としています。



副会長  
**村石 直樹**  
(小山市立小山第三中)

今年度副会長を務めさせていただくことになりました。県教頭会結成60周年という節目の年に教頭会に関われることを光栄に感じるとともに、その責任の重さを痛感しています。微力ではございますが、教頭会の発展のため尽力したいと思います。1年間どうぞよろしくお願いいたします。



副会長  
**谷口 祐一**  
(那須烏山市立烏山小)

今年度、副会長を務めさせていただくことになりました。コロナウイルス感染症の影響で、学校の教育活動が見直され、新たな常識に置き換えられてきています。この大切な時期、役員の皆様と共に教頭会活動の充実に向けて精一杯取り組んでまいります。1年間よろしくお願いいたします。



幹事長  
**豊田 浩一**  
(宇都宮市立古里中)

本年度、初めての役員として栃木県公立小中学校教頭会の幹事長を担当することになりました。会の運営が滞りなく進んでいきますよう務めさせていただきます。今年度は60周年記念事業も開催されます。平本会長のご指導の下、皆様のお力添えをいただき、微力ながら精一杯取り組んで参りますのでよろしくお願いいたします。



庶務  
**上岡 真澄**  
(宇都宮市立明保小)

今年度も、庶務を担当させていただくことになりました。県教頭会の目的に沿った活動方針のもと、教頭会事務局の皆様や役員の皆様と連携を図りながら理事会や研修会の司会進行を滞りなく進められるよう努めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



庶務  
**河内 哲也**  
(宇都宮市立宝木中)

本年度、初めての役員として、栃木県公立小中学校教頭会の庶務を担当させていただくことになりました。県教頭会の運営が滞りなく進みますよう、会議の進行等に努めてまいります。微力ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。趣味は家内との休日ランチ巡りです。





会計  
宇津木真理  
(宇都宮市立中央小)

昨年度に引き続き、会計を担当させていただいております。私の趣味というか好きなことは“ライブ”を見聴きすることです。音楽はもちろん、スポーツ生観戦（特に相撲&ブルックス）・ミュージカルや演劇の舞台等です。コロナ禍で思うように叶わない日々ですが、ライブ力からパワーをもらって頑張っていきたいです。



会計  
武藤 紀子  
(宇都宮市立豊郷北小)

昨年度に引き続き会計を担当させていただくことになりました。今年度は、「栃木県教頭会」の名称で発足して60年という節目の年になり、秋には周年行事が計画されています。教頭会の運営がスムーズにいくよう、事務局や役員の皆様と連携を図りながら精一杯努めてまいります。いろいろと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。



全国総務・調査部員  
小栗 克樹  
(宇都宮市立海道小)

昨年度に引き続き、全国公立学校教頭会の総務・調査部員を務めさせていただくことになりました。たいへん未熟ではありますが、皆様のお力添えをいただきながら、少しでも学校のプラスになるように活動していきたいと思っております。御指導・御鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



全国広報部員  
小森喜代美  
(宇都宮市立横川中央小)

専門部広報担当を務めることとなり、改めてこれまでの機関誌「Educasphere」と教頭会通信「きずな」を読み直しました。「教育管理・危機管理」など最新の教育課題に対応できるような内容になっています。何気なく目にしていた発行誌ですが、今年度は私もお役に立てるよう尽力したいと思います。



研究部長  
大木 和明  
(宇都宮市立姿川第一小)

コロナ禍のため、2年続けて書面開催となった総会が、今年は無事に参集型で開催することができました。秋には、結成60周年記念式典及び研究大会が予定されています。会員の皆様と相談しながら、平本会長を支え、第12期全国統一研究主題まとめの3年目として、これまでの研究の成果と課題を踏まえ深化・発展させていくとともに、今後の研究へと繋げていきたいと思っております。



調査部長  
津久井 文  
(宇都宮市立平石中央小)

今年度より、調査部長として県教頭会専門部役員をお引き受けすることになりました。未熟ではありますが、調査部の仕事を通して、教育現場の現状や実態を的確に把握するとともに、県と市とのパイプ役として情報発信ができるよう、精一杯努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



広報部長  
山口 和彦  
(宇都宮市立雀宮東小)

今年度より、広報部長を務めさせていただくことになりました。教頭会事務局の皆様、役員の皆様と連携しながら、会報を発行させていただきたいと思っております。ありきたりですが趣味は読書です。主に日本の文学ですが、漫画も好きでよく読んでいます。読書タイムは大切なリフレッシュタイムでもあります。



要請部長  
田崎 恭男  
(宇都宮市立東小)

昨年度に引き続き、要請部長を務めさせていただくことになりました。よろしくお願いいたします。私はもともとアウトドアが好きで、最近では休みの日に近場の低山を歩いています。野に咲く花や清流の水音に癒されています。少人数のバイク仲間との北海道キャンプツーリングも久しぶりに実現しそうです。



IT部長  
若林 直行  
(宇都宮市立白沢小)

今年度IT部を担当させていただくことになりました。会長を支え、会員の皆様方のご支援・ご協力をいただきながら、新型コロナウイルス感染症拡大防止に取組、子供たちにとっても、教員にとっても「魅力ある学校づくり」に取り組んでまいりますので、ご支援・ご協力の程よろしくお願いいたします。



**副幹事長**  
**保田 方美**  
(宇都宮市立陽南小)

今年度も微力ながら教頭会の幹事を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。現在勤務している陽南小は校庭がとても広く、多くの樹木が植えられています。管理は大変ですが、「陽南の森」と呼ばれる所もあり、どんぐりやまつぼっくりをたくさん採ることができ、子供たちも大好きな場所です。



**幹事**  
**須甲有美子**  
(上三川町立本郷北小)

今年度、初めて教頭会幹事を務めさせていただきましたことになりました。趣味は、友人と旅行に行き、美味しいものを食べるのですが、なかなか難しい状況です。せめて、コロナ禍でも、職員室は明るくしたいという思いでおります。教頭会においても、微力ではありますが課題の解決に取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



**幹事**  
**水口 武雄**  
(宇都宮市立陽東中)

栃木県公立小中学校教頭会結成60周年記念行事をはじめ、役員会、研修会開催等において微力ではありますが力を発揮していきたいと思っております。また、幹事として教頭会の更なる充実・発展のために全力で努めて参りたいと思っておりますので、1年間どうぞよろしくお願いいたします。



**幹事**  
**福田 靖彦**  
(日光市立日光中)

結成60周年を迎える節目の年に幹事を仰せつかり身の引き締まる思いです。11月には記念研究大会の運営、また、記念誌の作成にも係らせていただきます。様々な教育問題が取りざたされ、改革が進む中、教頭経験も浅く微力ではございますが、精一杯頑張らせていただきますのでよろしくお願いいたします。



**幹事**  
**箕輪 良行**  
(真岡市立山前中)

今年度、初めて教頭会幹事を務めさせていただきましたことになりました。栃木県公立小中学校教頭会という大きな組織の責任ある役職であり、自分には荷が重いと感じております。できる限り精一杯務めさせていただきますので、ご了承いただければ幸いです。1年間、どうぞよろしくお願いいたします。



**幹事**  
**小林真理子**  
(小山市立寒川小)

今年度、初めて教頭会幹事を務めさせていただきます。栃木県公立小中学校教頭会という大きな組織の役職であり、今年度は、60周年を迎えるということで、さらに重責を感じております。微力ではありますが、先輩の役員の皆様から教えをいただきながら、精一杯務めて参ります。よろしくお願いいたします。



**幹事**  
**桑原 裕子**  
(矢板市立東小)

今年度、初めて教頭会幹事を務めさせていただきましたことになりました。コロナ禍で様々な制限のある中、教頭のリーダーシップと柔軟に対応する力が今まで以上に試されていると感じております。新たな課題にも前向きに取り組んでいきたいと思っております。1年間、よろしくお願いいたします。



**幹事**  
**宇梶 誠司**  
(大田原市立金丸北小分校)

昨年度に続き、幹事になりました宇梶誠司です。授業の合間に子供たちと、また、放課後職員と交わす他愛のない会話が、とても楽しい毎日です。先日、職員室で話題に上った「カツ丼」のお店を訪ね、おいしくいただきました。今年度は、そうやってどのくらいのお店を訪問できるのか、とても楽しみです。



**幹事**  
**周東 良美**  
(足利市立大月小)

昨年度に続き、幹事を務めさせていただきましたこととなりました。週末はウォーキング等で、リフレッシュと体力維持に努めています。今年度もまだまだ学校生活では制限されることも多いかと思いますが、微力ですが会の発展・充実のため精一杯努めて参りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。





**研究副部長**  
**加藤 雅継**  
(宇都宮市立上河内中)

この春に、上河内中学校に着任いたしました。たくさん先輩方から、たくさんの方の事を教わりながら、日々の業務にむかっています。本年度、研究副部長を務めさせていただくことになりました。平本会長の下、研究を深めていければと思っています。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。趣味は2サスドラマの鑑賞です。



**研究副部長**  
**高橋 正和**  
(宇都宮市立新田小)

本年度、研究副部長を務めさせていただくことになりました。結成60周年大会の記念すべき年に務めさせていただくことを光栄に存じます。平本会長の下、大木研究部長にご指導をいただきながら、教育界、教頭会の発展のため、会員の皆様と連携しながら研究を深めていければと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。



**調査副部長**  
**吉田 保**  
(上三川町立明治南小)

今年度、調査副部長を務めさせていただくことになりました。「全国公立学校教頭会の調査」等を通して、副校長・教頭の現状を把握し、先生方へ調査結果をお伝えできればと思います。微力ですが、本会のために尽力していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



**調査副部長**  
**坂本 弘志**  
(宇都宮市立雀宮中)

今年度、調査副部長として県教頭会専門部役員をお引き受けすることになりました。現場では、コロナ対応や熱中症対策、一人一台端末の活用など、学校間の連携が更に求められています。調査部の仕事を通して、みなさまに有益な情報発信ができるよう努めて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



**広報副部長**  
**村松 保子**  
(宇都宮市立御幸が原小)

広報部の副部長として、会員の皆様の交流・情報交換の場となるよう、事務局や部員の皆様と協力して会報作成に携わってまいります。趣味と実益を兼ねて、クックパッドを活用した家族に喜ばれる時短料理を作っています。ワンディッシュに盛り付けると、食卓はカフェ気分…。洗う食器の数も少なくなります。1年間どうぞよろしくお願いいたします。



**広報副部長**  
**鈴木 克明**  
(宇都宮市立若松原中)

新任教頭となり、右も左も分からず異次元に迷い込んだような毎日です。時間のある時はよく音楽を聴いているか、のんびりと本を読んでいるかしています。お酒を嗜むことも好きで、今は日本酒にはまっています。これから県教頭会をはじめとして多くの先輩先生方にお世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。



**要請副部長**  
**栗原 隆史**  
(宇都宮市立御幸小)

要請副部長2年目となります。趣味は、DIYでの機械の軽修理や理科の掲示物・教材づくり、花の栽培などです。教育界は、人手不足や人材育成が慢性的な課題です。役職定年制や段階的な定年延長が、学校現場にどのような変化を及ぼすのか注目していきたいと思っています。引き続き、現場の声を関係機関へ訴えてまいります。



**I T副部長**  
**小杉 由美**  
(宇都宮市立宮の原中)

今年度、I T副部長として活動させていただきます。県や地区の活動を積極的に情報発信していきます。趣味は書と音楽。墨を大量に磨って大筆で文字を書きます。一日中、何十枚書いても、決して満足のいくものは書けませんが、その深い世界の魅力が少しわかってきたところです。1年間どうぞよろしくお願いいたします。



**I T副部長**  
**福田 隆行**  
(宇都宮市立豊郷中)

子供たちはGIGAスクール構想の波に乗りI T活用能力が右肩上がりに向上する中、自分自身は波にうまく乗れずおぼれかけています。そのような状況ですが、まずは部長を補佐しながら、I T部という船を少しでも効果的に動かし、会員の皆様に情報が提供できるよう頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## 子どもの可能性を育み未来を拓く学校をめざして

宇都宮市立清原北小学校 菅谷 則子

本校は、明治6年創立の歴史と伝統ある小学校です。児童数減少により平成17年に小規模特認校となり、市内全域から児童を募集し「夢育～子どもの可能性を育み未来を拓く～」の合言葉のもと、学校・保護者・地域・行政が連携・協力しながら夢と理想をもって成長していく学校づくりを目指しています。

特色として、実践的なコミュニケーション能力を育成する教科、会話科「ことばの時間」があります。外部講師を招き、朗読や話し方等、専門性を生かした授業を実施し体験を通して学んでいます。12月には「夢育劇場」として1、3、5年生による創作ミュージカル「鬼怒川のいのち」と2、4、6年生による創作劇「船頭物語」を発表しています。熱のこもったステージは圧巻で心に響きます。また、AETが常駐し外国語教育にも力を入れています。去年は宇都宮大学との連携により、マレーシアの小学校と英会話でのやり取りを楽しむこともできました。

地元、板戸の地域素材や教育力を生かした「板戸ふれあい学習」も充実しています。板戸町は昔、板戸河岸があり江戸と結ばれていた町です。そこで、地域の自然や文化、歴史の教材化を図り、学校と地域の方が連携協力するプログラムを計画・実践し、多くの方とふれ合い体験する学習活動を展開しています。「田んぼの周りの生き物調査」を行ったり、「鬼怒の船頭唄」や「船頭ダンス」を地域との交流の場で披露したりすることにより、子供たちの郷土愛が育まれています。

このように地域に見守られ支えられた、素晴らしい環境の中で、子供たちの豊かな人間性が育まれていることを嬉しく思います。



## P T A 組織改革「東っ子供援団」

真岡市立真岡東小学校 小村 亘

本校のP T Aは、毎年度、「学年委員」として各学年から数名、また「専門委員」として、「広報委員会」「研修委員会」「厚生委員会」「校外生活指導委員会」「ベルマーク委員会」数名を選出していました。

しかしながら、選出の際にはなかなか担当してくださる保護者が決まらず、大きな課題でした。そこで、P T A会長にこの問題点を相談したところ、「思い切って改善しましょう。」という言葉が返ってきました。

まず、学校の職員が担当できる部分と保護者に依頼したい部分をしっかりと洗い出しました。その上で、「学年委員」も「専門委員」も撤廃し、新たに子供たちをサポートしてくれる意欲のある方々を募り「東っ子供援団」と名付けました。この組織は、人数も仕事の内容も決めずに募りましたが、今年度は100名近い方々が手を挙げてくださいました。

内容としては、「社会科地域見学」「科学センター利用学習」「生活科見学」「ミシンボランティア」「演劇鑑賞会」などにおける児童の見守りをお願いしました。特に、「演劇鑑賞会」ではP T A会費から東っ子供援団の方の費用を賄うことで無料で鑑賞していただくことも考えました。また、依頼の方法は、教務主任が参加の可否をメール配信で確認し、その都度サポートできる方で無理なく御協力いただいています。

P T A会長さんと執行部役員さんたちの思い切った改革により、担任からは「年度当初に安心して保護者とよい人間関係づくりができるようになった」、保護者からも「意欲のある方が参加するようになったのでとてもよい」という声が聞かれました。これからも、時代に合わせたよりよい改善を推し進めていこうと考えています。



## より実践的な活動を目指して

南那須地区小中学校教頭会長 谷 口 祐 一

南那須地区は、那須烏山市と那珂川町の1市1町から成り、小学校8校、中学校4校の計12校の教頭によって組織されています。以前は本地区でも30校以上あった小中学校が、児童生徒数の減少にともなって統廃合が進み、現在の12校にいたっています。

地区とは別にそれぞれの市町で教頭会は組織され、当面する課題への対応や情報交換を進めています。一方、地区の教頭会は、県の研究主題を受けて研究を進める組織として活動したり、各学校の教育活動に関する情報交換を行ったりしています。

今年度は、県の研究課題「教育目標・教育理念に関する課題」に対し、「協働する教職員集団を目指して」と題し、副題の「教育目標の具現化に向けた教頭の関与の在り方」について研究に取り組んでいます。これまでに、「学校教育目標に則した各教育計画の作成」「学校教育目標の学年・学級経営への浸透を図る取組」「働き方改革の実践」等について研究を進めてきました。今年度はこれまでの研究を踏まえ、「学校評価の進め方」を軸に、3年間の研究を総括しています。研究にあたっては各学校の実践例を集め、教頭がどう関与していくか、具体的な教育活動をイメージしながら協議を進めています。

また、コロナウイルス感染症に関しては、各学校の取組状況について情報交換を行っています。コロナに関する状況が日々変化する現在、他校の様子を聞くこの時間は、教育活動を進める上で大いに役立っています。

今後も少人数という環境を生かし、教頭としての悩みを解決したり、働き方を改善したりしながら、より実践的な活動を目指して本地区の活動を進めていきたいと考えています。



## 生きる力を育む教頭会を目指して

佐野地区教頭会長 手塚 裕之

佐野地区教頭会は令和4年度現在で小学校20校（20名）、中学校8校（8名）、義務教育学校1校（前期1名・後期1名）、附属中学校1校（1名）の合計31名で組織されています。

会には会長、副会長の他、研修部、調査部、表簿作成部、厚生部の4つの部会が組織され、それぞれの担当事項を分担して行っています。

全体研修会では県教頭会研修課題の研究推進、研究発表リハーサル、各種研修会参加報告、各部会毎の研修会、各部会からの連絡や協議等を行っています。また、全体研修会後は小学校規模別グループ2つと中学校グループに分かれて情報交換会も実施しています。

令和2年度から第12期「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」の研究主題のもと、「PTA及び地域社会に関する課題」について研究を進めてきました。今年度は3年目となり、11月の結成60周年記念研究大会で発表する予定です。

佐野市は、現時点で、今後令和29年度までに、児童・生徒数の減少、校舎の老朽化、学校規模の適正化などの課題解決に向けて、市内全ての小中学校が施設一体型の義務教育学校に再編される予定となっています。令和2年度には、戸奈良小、三好小、山形小、閑馬小、下彦間小、飛駒小、田沼小の一部と田沼西中が総合され、あそ野学園義務教育学校が開校しました。令和5年度には、葛生小、葛生南小、常盤小、氷室小と葛生中、常盤中が統合され、葛生義務教育学校が開校します。

社会情勢、地域の実情、財政状況等により、適宜見直される予定ではありますが、最終的に9校の義務教育学校に再編される計画となっています。今後、それに伴って学校数が少なくなり、会員数が少なくなっていくても、佐野市の子供たちの生きる力を育む教頭会を目指して、研鑽を重ねていきたいと考えています。



### 初夏の朝

日光市立小来川中学校 金子久佳

日曜日はまだ暗いうちに目を覚まし、深夜に放送されるテレビ番組の録画をすることが多い。また、天気の良い日にはよく散歩に出かける。

4時15分、家を出発。日の出前のきれいな朝焼けを目にしなが、川に向かって歩く。夏至の頃は、4時を過ぎるとあたりは明るい。川を上流に向かって歩き始める。川には草が生い茂り、夏の訪れを感じる。その草たちは、ゆらゆらと川の流れの音に合わせ揺れている。朝の川沿いには、流れと同じ方向に心地よい風が吹いている。昨日は、梅雨明け前にもかかわらず、6月の観測記録初の40℃越えというニュースで沸いた。そんなことが嘘のような実にさわやかな風である。川面に留まる2羽の鳥が私が近づくと川上に飛んでいった。そんな光景を見ながら、さわやかな風を正面から体全体に浴びる。橋の上では、鳥のさえずりと川の流れを聞きながら、さわやかな風を真横から浴びる。川から離れ、水田に流れ込む水の音を聞き住宅道に向かう。細い路地を抜け、大きな通りに出ると山の上からまぶしいほどの太陽が顔を出していた。

4時55分、今日も晴天、暑い1日になりそうだ。

### 美しい風景とともに

塩谷町立大宮小学校 田崎年子

大宮小学校は、学校を取り囲むように水田が広がり、校舎の背面には高原山がそびえる自然豊かな学校です。晴天の日には青く輝く高原山、那須連山とともに、白壁と青い屋根の校舎が映え、私はこの美しい風景にしばし目を奪われます。

今年度の定期異動により、初めて教頭職となり、初めて赴任する学校でもあったので、慣れないことづくしで無我夢中の毎日を送っていました。そんな中、束の間の癒しを与えてくれたのはこの美しい風景です。今では少し余裕が出て、山々の毎日変わる小さな変化にも気づけるようになりました。

数年前から健康維持を兼ねて、休日に日光や那須などに出かけ山歩きをするようになりました。自然の中をのんびりと歩く時間は本当に心地よく、心身ともにリフレッシュすることができます。

自然を身近に感じながら、毎日の生活を送ることができて幸せを感じます。本校の子供たちにも、身近にある豊かな自然を活かした教育活動をとおして、自然や故郷を愛する気持ちを育ててほしいと思います。

### 忘れられない一枝

足利市立毛野南小学校 増田ルリ子

この時期が来ると、思い出すことがあります。小学4年生の時、理科の時間に「挿し木」を一つ持ってくるよう言われました。当日の朝、教室に入ってくる友達の手には、ビニル袋に入った挿し木。しまった、忘れた、どうしよう。理科の授業は午後だ。それまでに何とかしなくちゃ。持ってくるのを忘れた私は、朝からずっと、挿し木のこと頭がいっぱいでした。あっ、そうだ。北校舎の裏に、何か植木があったっけ。先生は、何を持ってきてもいいと言っていたのだから。

昼休みを待って、ひっそりとした裏庭に一人走って行き、何の木か分からぬ一枝をポキッと折って教室に戻ったのです。何食わぬ顔で授業の始まりを待つ私。全てが上手くいったので、ほっとしました。先生が、「おっ、みんな挿し木を持ってきたなあ。机の上に置いて先生に見せてごらん。」と言い、私もみんなと同じように机に置きました。すると、クラス中を一巡した先生が再び私の方に歩いてきて、「とても良い挿し木を持ってきたね。アジサイは挿し木に適している。いい花が咲くぞ！」と。正直に言えなかった私。

今では300種以上もあると言われている紫陽花が、今年もあちこちで咲き乱れています。きれいな紫陽花に心を奪われながら、いつもあの日を思い出すのです。

### 編集後記

例年になく早い梅雨明けとなり、本稿執筆中の現在、うだるような暑さが続いています。

なかなか終わりの見えないコロナ禍に加え、世界情勢の影響等で物価の上昇が続くなど厳しい日々が続いていると感じます。ただ、それでも未来の希望である子供たちは、毎日着実に、頼もしく成長を続けています。そして、その成長のために力を尽くしていらっしゃる皆様のお姿を、本号にも数多く掲載することができました。

末筆ながら、お忙しい中原稿をお寄せくださった皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございました。(山口)